

ヘルスリテラシー
を高めよう

女性ホルモンとがん

知っていますか？

がんのリスク

日本人の2人に1人がかかるといわれているがん。がんの予防は難しいと思われがちですが、がんにかかりやすい要因を知り、適切な対策をとることでもがんのリスクを下げることが可能です。

がんの発症要因はさまざまですが、乳がん、子宮体がん、卵巣がんは女性ホルモンの一種であるエストロゲンが関わっていることがわかっています。エストロゲンには細胞の増殖作用があるため、がんの発生に関与していると考えられています。



乳がん・子宮頸がん検診を受けていますか？

女性には必ず定期的に受けてほしい乳がん・子宮頸がん検診。でも、「がんが見つかったらこわい」「仕事や家事が忙しい」と受けない方が多いですが、どちらのがんも、発見が早ければ高い治癒率が見込めますし、治療にかかる時間やお金が抑えられ、心身の負担も最小限で済みます。あなたや大切な人のために、健保の「婦人科検診」を必ず受けましょう。

子宮頸がん

子宮の入り口の表面の細胞にできるがん。20歳代から罹患率が高くなります。多くの場合、性行為によって感染するヒトパピローマウイルスが関与しています。進行すると子宮全摘が必要になるため、早い段階で発見することが大切です。

※「月経中でないときや性行為の際に出血する」「普段と違うおりものが増える」「月経血の量が増えたり月経期間が長引く」ときは、検診を待たずに医療機関を受診しましょう。

検診は

問診

+

視診

+

細胞診*

*子宮頸部の表面を綿棒などで軽くこすり取った細胞を顕微鏡で調べます。痛みはほとんどありません。

無料で検診が受けられます

健保組合から対象者へ婦人科検診のご案内を配布しています。最寄りの対象医療機関をご予約の上、検診を受けましょう。

対象
年齢

乳がん検診……35歳以上の女性被保険者
子宮頸がん検診…35歳以上の女性被保険者

乳がん

エストロゲンという女性ホルモンが深く関わっており、女性がかかるがんの第1位。40歳代後半にもっとも多く発生しています。比較的治りやすいがんで、早期に発見・治療すれば、乳房を温存しながら治すこともできます。

とくに注意が必要な人

- 初潮年齢が低い・閉経年齢が高い
- 出産歴がない
- 最初の出産年齢が遅い
- 閉経後の肥満
- 乳がんにかかった血縁の家族がいる
- 良性の乳腺疾患にかかったことがある

検診は

問診

+

視触診

+

マンモグラフィ*
または
エコー

*乳房専用のX線検査です。40歳未満ではエコー検査の方が有効な場合があります。